

令和二年度 近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞

「税の大切さについて」

奈良市立平城中学校 一年 古田 小春

私の曾祖母は、現在90歳で介護施設に入所しています。介護度は「要介護2」と認定されています。認知症はないものの、足の筋力は弱り、車いすの生活を送っています。年に何度か両親と見舞いに行くと、とても嬉しそうに出迎えてくれます。施設の介護職員さんも「ひ孫さんが来てくれたよ」と声をかけてくれます。私は少し照れ臭いですが、曾祖母と会う時間がとても楽しいです。

今回、税についての作文を考えるにあたり、曾祖母の入所施設や介護サービスでも税金が使われていることを知りました。例えば、要介護認定を受けると、車いすや特殊ベッドなどの福祉用具をレンタルできます。また、ヘルパーと呼ばれる訪問介護員が家を訪問し、トイレやお風呂などの身の回りの援助や、買い物や料理、洗濯などを支援してくれます。このような介護サービスの財源は、40歳以上の方が納める介護保険料と税金でまかなわれていると父が教えてくれました。

今、日本では少子高齢化が進んでいます。介護を必要とする高齢者が増え、それに伴い介護サービス費も増大しています。しかし、その一方で費用を負担する働き手は減ってきています。曾祖母も、税金のおかげで介護が必要になったときに、介護サービスを受けることが出来ました。もし、この先税金が不足し、介護や支援を必要としている人たちが介護サービスを利用できなくなったらどうなるのでしょうか。

これからの日本では、高齢になっても豊かで安心して暮らしていくための備えが必要です。介護サービスだけでなく、私たちの生活は税金によって様々な公共サービスを受けていることを忘れてはいけません。税金を納めることは、納税者である国民一人一人にとって大切なことです。

昨年10月から消費税が10パーセントになりました。当初、消費税率が上がったことに対して深く考えませんでした。今回税について学び、意識が変わりました。税金を納めることは今困っている人を救うだけではなく、私たちの将来のためでもあります。消費税率の引き上げの分が、社会保障の充実と安定化に使われれば、これからの超高齢社会や必要な公共サービスを維持していけるのではないかと思います。

私は、日本の将来を考えながら税を納め、社会に貢献する大人になっていきたいと思っています。そして、税金が様々な面で私たちの暮らしに深く関わり、支えてくれていることに感謝しながら生きていきたいです。